

秋の花粉症を 起こす草花

●春ほどではないものの患者さんは多いようです

春先に話題になる杉やヒノキの花粉ほどではないものの、秋にも花粉症があり、花粉症患者の内、全体の15%程度が悩まされているといわれています。症状については春のものと比較して細かい花粉のため、気管に入りぜんそくのような症状を引き起こすこともあります。

今回はどのような草花が秋の花粉症に関わっているのかを見てみましょう。

●ブタクサ

明治時代初期に海外から移入した北米原産の帰化植物で、全国の河原や道路沿い、山野などいたるところで見ることができます。

小さな花が黄色い房のように咲き、ここから花粉は風に乗って飛んでいきます。

よく似た「セイタカアワダチソウ」もブタクサと呼ばれていますが、風ではなく虫が花粉を運ぶので全く別の植物です。



●ヨモギ

野草として天ぷらや草餅の材料に用いられるヨモギも、花粉症の原因となる花をこの時期に咲かせます。ヨモギには根から他の植物の発芽を抑制する物質を出す性質があるため群生になりがちです。また根は横に延びる地下茎で、一か所を刈り取っても少し離れたところに群生するので注意が必要です。近くで見かけたら食べてしまった方がよさそうですね。

●カナムグラ

カナムグラはあまり耳にしない名前ですが、こちらにもアレルゲンとされています。とげのあるつる植物で、このとげがあるために刈取りが進まず大群落を作ることが多く見られます。農場や畜産、家庭排水で土壌が富栄養化したような場所を好むので、こうした場所を清潔に保つことで繁殖を防ぐことへの第一歩です。



From the author・・・ 晩秋にはススキなどもアレルゲンとされています。